

新型コロナ後遺症及び
新型コロナワクチン後遺症への対応強化を求める意見書

昨年5月、新型コロナウイルス感染症が5類に分類された後も、長期にわたり疲労感、呼吸困難、筋力の低下、記憶障害などの後遺症（コロナ後遺症）に苦しむ人が多いことが、厚生労働省研究班の大規模調査で明らかになってきた。

また、新型コロナウイルス感染症対策として実施されたワクチン接種において、接種後の体調不良や歩行困難、関節症、慢性疲労等の蔓延する症状（いわゆるワクチン後遺症）を訴える人も少なくない。

その一方で、検査をしても異常が見つからない患者もおり、患者が医療機関をたらい回しにされる事例もあり、コロナ後遺症やワクチン後遺症に対する医療者や周囲の理解不足が患者を更に苦しめている現状がある。

通常の保険診療であることから、医療費の負担も重くのしかかる。そもそも発症の仕組みが未だに解明されておらず、どんな症状がおこるのか、どれだけ長く続くのかについてもわかっておらず、効果的な治療法も確立していない。

よって、国におかれては、悩んでいる患者に寄り添い、下記の事項の実現を強く求める。

- 1 新型コロナウイルス感染症の後遺症及びワクチン後遺症に悩む人への相談体制を整備するとともに、後遺症の適正な認定及び多様な症状に対応するため、後遺症の認定及び幅広い分野の専門医かかりつけ医が連携した複合的な支援体制を構築すること。
- 2 新型コロナウイルス感染症の後遺症及びワクチン後遺症の影響で、仕事を失ったり休業を余儀なくされたりする人が相次いでいることから、経済的な支援として療養のための補償制度を創設するとともに相談や就労支援を強化していくこと。
- 3 新型コロナウイルス感染症の後遺症及びワクチン後遺症への理解とその啓発を行うとともに、社会全体で認識を深め、患者が孤立することがないよう社会的認知度の向上に取り組むこと。

以上、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出します。

令和6年6月24日

江 津 市 議 会